

掲示板 II

東京天文台助手公募

東京天文台では測光部門の助手 1 名を公募します。分野はファブリ・ペロー分光測光など実験観測による広義の恒星物理学の研究。応募資格は大学院修士課程修了以上。応募者は履歴書、論文リスト、論文別刷（共著の場合には分担した役割を明記すること）、研究計画書を $\text{〒}181$ 三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台長あて、昭和 52 年 8 月 20 日までにお送り下さい。封筒に「助手応募書類」と朱書きのこと。

東京天文台長 末元善三郎

北海道大学理学部物理教室助教授公募

下記のとおり理学部物理教室助教授を公募します。

1. 公募人員：助教授 1 名。
2. 所属部門：宇宙物理学研究室。
3. 専門分野：宇宙物理学理論（プラズマ物理、相対論を含む広い意味の宇宙気体力学）。
4. 着任時期：決定後なるべく早い時期。
5. 応募資格：理学博士の学位を有する者。
6. 提出書類：履歴書、論文リスト及び論文別刷、研究計画書、推薦書。
7. 締切期日：1977 年 8 月 1 日必着。
8. 連絡先： $\text{〒}060$ 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北大理学部物理教室将来計画人事委員会
田中 一 電話 011-711-2111 内線 2692

新刊紹介

天文学入門（カッパブックス）

I. アシモフ著、平山智啓訳

光文社、新書判、252 頁、600 円

著者アシモフは広範な知識に裏づけられた科学啓蒙家として、また SF 作家として有名である。本書は純然たる天文学の入門的解説書であるが、筆致は軽快であり、大学の講義ではなく茶の間の話題という雰囲気である。内容の骨格は、恒星入門、惑星系、木星と生命、潮汐力、大隕石、惑星軌道計算、オルバースの逆説、ラグランジュ点、恒星各論、彗星、宇宙の年令、などであるが、これらは全て人間生活への関連、未知なるものへの興味といった観点から肉づけされている。

新地学教育講座（全 16 卷）

地学団体研究会編

東海大学出版会、A5 判、各巻 200 頁前後、各巻

1,600 円

この講座の目的は、小中高校の地学教育のための手引き書としての役割であり、カリキュラムに対応して、地球全般、地震と火山、鉱物、岩石、地球内部、地層と化石、地球の歴史、日本列島、地形と土壤、大洋と陸水、気象、自然と人間、などの広い分野をカバーしている。天文関係は、星の位置と運動、太陽系、星と宇宙、となっている。6月1日現在、一部未刊（第5、第13巻）となっているので、詳しい内容紹介は「書評」欄にゆずるが、「星の位置と運動」では教える立場で必要となる知識を網羅しており、「太陽系」では最近の宇宙開発の成果も取り入れている。構成は、オーソリティの監修のもとに第一線の研究者が執筆し、これを教育者の立場で書き改めるライターをおく、という形になっている。地学団体研究会は地学教育の関係者で構成され、30周年を迎えることである。昭和 30 年には、この講座の前身である「地学教育講座」を刊行している。（中嶋）

雑報

ヴェネラ 9、10 号の成果

一昨年 6 月に金星に降りたヴェネラ 9、10 号のデータが *Cosmicheskii Issledovaniia* 誌の 76 年 9/10, 11/12 月号に一挙に掲載されています。かいつまんで御紹介します。地表データについては、すぐ新聞等で報道されたものとそう変らず、地表の岩が 9 号の場合は若く、岩の成分はガソマ線分析から玄武岩的、密度が $2.7\text{--}2.9 \text{ g/cm}^3$ で地球型惑星はどれも表面は同じらしいなどです。TV 地表写真に並んで、今回のハイライトは、金星の雲の物理状態の決定でしょう。着陸船の降下中、または周回軌道船により、赤外・可視・近紫外波長で測光・分光が行われ、雲粒子による吸収散乱の模様があらゆる角度から追求されました。前から言っていたように、雲の上層はもやもやして、はっきりした境界がなく、光の吸収が始まることで地上 70 キロくらい。夜の側の方が昼の側より数キロ低め、50 キロ辺りで毎秒 60 メートルくらいの風が吹いている。Marov（私信）などは、雲粒子の粒子分布を総合的に第 1 表のようにまとめています。

第 1 表 金星雲粒子の状態

	ヴェネラ 9 号			ヴェネラ 10 号		
高 度 (km)	視界 (km)	粒 子 (μm)	密 度 (cm^{-3})	視界 (km)	粒 子 (μm)	密 度 (cm^{-3})
61 (62)-57	3.0	0.8	400	1.0	1.5	300
57-51	1.7	2.0	70	0.85	2.5	120
51-49	4.0	1.5	60	0.8	2.0	200
49-18	20.0	2.5	2	20.0	2.5	2

雲の底部が約 50 キロ辺にあり、雲中でも視界は数キロメートルで、雲がかなり薄いことを物語ります。(地球成層圏の濃硫酸エアロゾル密度の 10 倍程度)。これらの雲の主層の上に、近紫外光を散乱させる層があることも、再確認されています。

雲より上の問題としては、金星上で古くから知られている現象「Ashen light」という夜光のスペクトルが可視域を中心として検出されました。このスペクトルの同定は、アメリカの Barth らによっていち早く行われ(Science 195, 573, 1977), 炭酸ガスが壊れてできた酸素原子が、

酸素分子を作る際出す光とされています。

も一つ、軌道船から出す電波の掩蔽観測で、金星の電離層に太陽風の及ぼしている影響がきれいに出ました。マリナー 9 号、10 号のデータで互にやや矛盾しているかに見えた夜側の電子分布が、夕か夜かで、大変ちがってくるのだと明確に示されたのです。

これだけ出されると、来年のアメリカの金星バイオニア計画は、だいぶ苦しくなります。最初の計画では、殆んど同じような計器を積んでいますから、少し取り替えたところでうまく行くかどうか……。(清水幹夫)

賛助会員名簿

(1977年7月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりであります。ここに
(社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。 (五十音順))

旭光学工業株式会社	松本三郎	谷村株式会社新興製作所	谷村昌子
朝日新聞社科学部	木村繁	地人書館	中田威夫
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	天文博物館	島昇
岩波書店	岩波雄二郎	五島プラネットarium	島川一
宇宙開発事業団	島嶋秀雄	東京電力株式会社	木隆彌
沖電気工業株式会社	佐藤敦之	東北電力株式会社	若林
近江屋写真用品株式会社	野呂義雄	長瀬産業株式会社	田悟
カールツアイス株式会社	波木泰三郎	コダック製品部	田上俊男
河出書房新社	佐藤皓三郎	ナルミ商會	村彌永恭二郎
関西電力株式会社	芦原義重	日本光学工業株式会社	月鉄工所
関東電気工業株式会社	関井忠夫	法月鐵工所	法月惣次郎
啓文堂松本印刷	松本喬路	富士通株式会社システム統轄部	松田季彦
恒星社厚生閣	志賀正路	丸善株式会社	飯泉新吾
五藤光学研究所	五藤齊三郎	三鷹光器株式会社	中村義一
金光教本部教序	金光鑑太郎	三菱電機株式会社	土井博之
誠文堂新光社	小川茂男	宇宙開発部	田嶋一雄
ソニーブルースタジオ	小岩間和夫	ミノルタカメラ株式会社	

1977年5月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	1, 9	6	1, 7	11	3, 18	16	3, 11	21	1, 8	26	—, —
2	1, 4	7	1, 8	12	5, 19	17	2, 17	22	1, 2	27	2, 5
3	1, 9	8	2, 14	13	4, 15	18	1, 12	23	1, 2	28	1, 4
4	—, —	9	2, 9	14	3, 16	19	3, 7	24	0, 0	29	—, —
5	—, —	10	3, 13	15	—, —	20	1, 5	25	0, 0	30	—, —
(相対数月平均値: 20.3)											31, 2, 40

昭和52年7月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13592